

修士論文要旨

2010年1月

看護学生の特徴—不安とストレスコーピング、時間的展望体験との  
関連を中心に—

指導 中村延江 教授

国際学研究科

人間科学専攻 臨床心理学専修

208J5022

宮崎淳子

# 目次

序論	1
第一部 先行研究	
1. 看護学生について	3
2. 不安	10
3. ストレスコーピング	12
4. 時間的展望	18
5. 先行研究における問題点	20
第二部 本研究	
1. 意義	21
2. 目的	21
3. 研究方法	22
1)調査対象と手続き	22
2)調査内容	23
3)分析方法	23
4. 結果	24
1)看護学生と大学生の不安得点、時間的展望体験、ストレスコーピングの比較	24
2)不安と時間的展望体験およびストレスコーピングの関連	26
5. 考察	29
1)看護学生の特徴の検討	29
2)不安と関連のある項目の検討	32
6. 総合考察	35
1)看護学生の特徴の検討	35
2)不安と関連のある項目の検討	36
7. 補足的な研究	37
1)研究方法	37
2)結果	40
3)考察	41
8. 総論	43
9. 研究の限界と今後の課題	45
謝辞	
参考・引用文献	
付録	
質問紙フォーマット	

## 1. 問題・目的

看護学生は、カリキュラムの過密さや、実習活動の多さなど、同年代の他学科生とは様々な点で異なる、ストレスフルな学生生活を送っている。特に、看護学生が感じる心身の負担には、臨地実習活動が大きく影響していると考えられており、そのため、看護実習における看護学生の負担について検討した研究は多い。しかし、これまでの研究では、看護実習における、具体的なストレスコーピングの例を挙げて不安やストレスとの関連を検討したものはあるが、数的な処理を実施した例は少ない。

そこで、看護学生の中に生じる不安やストレスが、看護学生のどのような特徴、傾向に起因するのかが明らかにすれば、実習についての不安感への対処方法が見いだせるのではないかと考える。そこで、ストレス反応と関連のあるストレスコーピングと時間的展望体験に焦点を当て、看護学生の抱く不安について検討する。

## 2. 方法

質問紙調査

対象：短期大学看護学科3年生 68名、4年生大学生 91名

期間：2009年4月～11月

質問紙の構成：①フェイスシート② Lazarus Type Stress Coping Inventory(SCI) ③新版 State Trait Anxiety Inventory(STAI)④白井(1994;1997)の時間的展望体験尺度であった。

## 3. 結果

看護学生の特徴の明確化のために、実験群と統制群の STAI、時間的展望体験尺度、SCIの得点の平均値の比較を対応のないt検定を用いて検討したところ、「状態不安」は1%水準、SCIの下位尺度である「社会的支援模索型」は5%水準で実験群が有意に高いという群間差が見られた。

次に、不安と時間的展望体験およびSCIとの関連については、実験群、統制群それぞれの相関を求めたところ、実験群では、「時間的展望の合計」、「希望」、「現在の充実感」、「過去受容」と「状態不安」との間にそれぞれ5%水準、「目標志向性」と「状態不安」との間に1%水準で有意な負の相関が見られた。一方統制群では、「時間的展望の合計」、「目標志向性」、「希望」、「現在の充実感」、「過去受容」と「状態不安」との間にそれぞれ1%水準で有意な負の相関が見られた。

## 4. 考察

本研究の結果より、看護学生は、大学生に比べて不安・緊張が高い状態で学校生活を送っており、ストレスコーピングの利用には、他の専門家に助けを求めようといった対処方法の使用頻度が目立ち、実習活動に参加するにあたり、医療現場でのコミュニケーションの重要性をしっかりと教育されていると考えられた。また、時間的展望体験の下位尺度について差が見られなかったのは、統制群である大学生に福祉関連の学群に所属している学生もおり、将来の資格修得を目標としている学生が含まれていたことや、対象となった看護学生たちは、忙しいカリキュラムの中でも、現在の看護教育に対する充実感や満足感が高かったため、大学生と変わらない時間的展望を抱いていたとも考えられた。

また、看護学生も大学生も、時間的展望体験の低さと不安の高さとが関連しており、過去、現在、未来へのポジティブな評価を出来る者は、不安をあまり感じないことが示された。また、看護学生と大学生とでは、「目標志向性」と「状態不安」との相関の水準が異なり、看護学生の将来の目標に対する態度は、一時的な不安に影響されることが少なく、不安と低い相関を示したと考えられた。

## 5. 補足的研究

本研究では、看護学生に対して、実習前と実習中のストレスコーピング、時間的展望体験、不安の違いについて研究する予定であった。しかし、実習後に回収できたデータ数が少なく数量的処理が不可能であったため、前に示した研究に変更した。そこで、平均値の比較から、看護学生の実習前後の変化について検討する。

<方法>対象：短期大学看護学科3年生6名

期間：2009年4月13日（以下実習前）、2009年5月12日（以下実習中）

質問紙の構成：本研究と同様

<結果> 実験群の実習開始の1か月前と実習中の各項目の得点の平均値を比較したところ、もっとも大きく変化したのは、状態不安の得点で、次に変化があったのは、時間的展望の合計点であり、そのほかの項目については、いずれも得点の変化が小さかった。

<考察>実習前に比べて実習中の状態不安が大きく上昇しており看護学生たちは実習による負担を感じていることが示唆された。また、時間的展望体験は減少しており、実習中の忙しさから、忙しい現在に対して充実感を感じる事が少なくなくなり、現在から見た地震の過去や未来に対する評価が下がっていると考えられる。実習中には、活動の忙しさや上手く活動できない不全感から、見通しが悪くなり、強い不安を感じる可能性があると考えられる。

## 参考文献

- Beck,D.L, & Hackctt,M.B. & Srivastava,R. & McKim,E & Rockwell,B. 1997  
Preceived Level and Sources of Stress in University Professional Schools  
*J,Nrs,Education*,36(4),180-186
- 飯出美枝子・三木園生・澁谷貞子 2005: 実習前後の看護学生の不安の変化について  
-STAIX を用いての分析-, 桐生短期大学紀要,16, 65-70
- 上里一郎監修 2001: 心理アセスメントハンドブック第2版, 西村書店
- 江上千代美, 安永悟 2004: 看護学生の人生目標と社会適応, 久留米大学心理学研究  
科,3,71-82
- 奥田雄一郎 2002 時間的展望研究における課題とその可能性ー近年の実証的, 理論的研究  
のレビューにもとづいてー, 大学院年報(文学研究科篇:中央大学),31,333-346 .
- 柳原かおり・牧野 有里子・宮島 いづみ 2003: 新人看護師のストレス要因とコーピング  
について-1・2年目看護師による面接調査-, 日本看護学会論文集, 看護管理,34,  
142-144
- 神戸美輪子 2001: 看護学生のキャリア志向と時間的展望 日本看護学教育学会  
誌,11(2),1-9
- 小杉正太郎(編著), 福川康之, 島津明人, 田中美由紀, 林弥生, 山崎健二, 大塚泰正,  
田中健吾, 種市康太郎(著) 2002: ストレス心理学ー個人差のプロセスとコーピング,  
川島書店
- 社団法人日本看護協会広報(2009年6月16日付)
- 佐藤公子 2006: 基礎看護実習における学生のストレスコーピングとコーピング行動の検  
討; ストレス・コーピング能力をはぐくむアプローチとは, 臨床看護,32(6),939-946
- 佐藤公子 2007: 実習前の不安が学生のストレス・コーピングと心理状態に与える影響につ  
いて-基礎実習Ⅱの開始前・後のアンケート調査からの考察-, 臨床看護,33(10)
- 佐藤信枝 2005: 実習に伴う学生の不安要因-看護学生の初回実習-ヘルスサイエンス  
研究,9(1),11-20
- 立石慶子・立石修康 2006: 作業療法学科臨床実習における学生の抑うつとストレスコーピ  
ング, 九州保健福祉大学研究紀要,7,173-176
- 糖野亜紀 2004: 短期大学生の精神的健康状態に関する研究 和歌山信愛女子短期大学信愛  
紀要 (44), 49-51
- 中島義明, 子安増生, 繁樹算男, 箱田裕司, 安藤清志, 坂野雄二, 立花政夫 1999: 心理学  
辞典 有斐閣
- 日瀧淳子, 齋藤誠一 2007: 青年期における時間的展望と出来事想起および精神的健康と  
の関連 日本発達心理学会18(2),109-119
- 溝口満子, 大石杉乃, 竹内佐智恵 1997: 看護大学生の実習時における困難な問題とコーピ  
ング, 東海大学健康科学部紀要,3
- 山本有紀, 服部卓也 1998: 看護学生のストレスに関して, 群馬保健学紀要,19,77-80